

## 油圧ジャッキ 10 トン低床コンパクト 取扱説明書

品番：OBJ-10

---

この度は、KIKAIYA 「油圧ジャッキ 10 トン低床コンパクト」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

\* 本書を最後まで必ずお読みいただき、商品を正しく安全にご使用ください。

\* 本書が必要になったとき、すぐ利用できるように大切に保管してください。

---



**コバヤシデンソー株式会社**

〒729-0112 広島県福山市神村町字仁五下 4757-1

(M A I L) info@kikaiya.com

# 1. はじめに

---

この度は「油圧ジャッキ 10 t 低床コンパクト」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にはこの取扱説明書を必ずお読みください。

## ■調査及び修理をご依頼の前に

故障とお考えの前に、弊社までご相談ください。

改造により故障及び損傷した場合は修理対応できませんのでご注意ください。

調査を依頼される際の送料は、お客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。

## ■開封時

開封したらすぐに中身を確認してください。

付属品の欠品、破損、初期不良等がございましたらすぐに販売店にご連絡ください。

※商品は到着しましたら7日以内に必ず開封して中身/動作をご確認ください。

(製品は改良の為、予告なく仕様を変更する場合があります)

## ⚠ケガ等の事故を未然に防ぐため、次に述べる安全上の注意事項をお守りください。

- ・ご使用になる前に取扱注意書をよくお読みになり正しくお使いください。
- ・ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や物的損害に結び付く重大な内容を記載しています。
- ・読み終わった後は、お使いになる方がいつでも見ることのできる場所に保管してください。
- ・本機を譲渡される際は、必ず取扱説明書を付けてお渡しください。

# 2. 製品安全上の注意事項

---

- ・この製品は手動専用です。
- ・ご使用前には必ず製品に異常がないか目視確認して正規の状態でご使用ください。
- ・ご使用前や使用中に製品に異常が見受けられた場合は直ちに使用を中止し点検作業を実施してください。(溶接部のひび割れ・曲がり・破損・亀裂・変形・緩みや部品の欠落等の異常がないか目視確認する)
- ・修理技術者以外の方は、分解・修理をしないでください。
- ・雨や水気のある場所では使用しないでください。(故障の原因となります)
- ・体調の悪い時は使用しないでください。(けがの原因となります)
- ・作業場所には、作業関係者以外は近づけないでください。(特にお子様は危険です)
- ・作業場所は十分な採光をとってください。(暗い作業場所での使用は事故やケガの原因となります)
- ・作業に適した服装で作業を行ってください。
- ・能力以上の荷重をかけないでください。(製品の故障や重大な事故を起こす可能性があります)
- ・強い衝撃を与えないで下さい。(故障・破損の原因になります)
- ・本製品はジャッキアップ・ジャッキダウン専用です。  
荷重を長時間保持する事はできませんので、必ずジャッキスタンドで荷重を受けてください。

- ・必ず自動車メーカーが指定したジャッキポイントで上昇させてください。(車の取扱説明書をご確認ください)
- ・自動車をジャッキアップさせた後、作業を始める前には必ず適切な位置へジャッキスタンド等で荷重を受け、作業中も常にスタンドを使用してください。 ジャッキアップした状態で車の下に入らないでください。
- ・荷重は受け台の中心で受けてください。受け台のサイドで荷重を受けるとジャッキポイントが外れたり、ジャッキが破損したりする恐れがあります。
- ・ジャッキは水平なコンクリートなどの強固な床の上でご使用ください。

### 3. 仕様

#### ■仕様

商品名	油圧ジャッキ 10 トン低床コンパクト
品番	OBJ-10
本体重量	7.3kg (ハンドル含む 7.9kg)
能力	10 トン
ストローク	95mm (高さ 128~223mm)

※製品は改良の為、予告なく仕様を変更する場合があります

#### ■サイズ



## 4. 使用方法

---

### 【使用上の注意】

この油圧ジャッキは低い位置から高い位置まで動く様に2段シリンダーを採用しております。  
2段（太いシリンダーと細いシリンダー）の特性をよく理解してお使いください。

#### ◆初回使用時には必ずジャッキのエア－抜き作業を行ってください

（次ページ「エア－抜き手順」参照）

（各部の状態に異常が無いを確認してください）

- ✓ この商品の使い始めや長期使用しないで使いはじめる時にはシリンダーの動きを注意して見てください。
- ✓ ポンピング（ハンドルを上下）して上昇させる時に初めに太いシリンダーから先に動くか確認してください  
**【注意】** 細いシリンダーが先に動く場合は、最初に足で踏み体重をかける等して細いシリンダーを押さえながらポンピングしてください。  
そうすると細いシリンダーに抵抗がかかり、太いシリンダーだけが上昇します。
- ✓ 上昇させ続けると太いシリンダーが上限に達し、続いて細いシリンダーが上昇します。  
**※必ず太いシリンダーが動いて、次に細いシリンダーが動きます。**  
もし細いシリンダーが先に動いた状態で上昇させ荷重がかかる作業をした場合には、その荷重で細いシリンダーが縮み太いシリンダーが少しだけ上昇します。

**作業する時は必ず太いシリンダーだけが上昇するか、  
太いシリンダーが伸びきって、次に細いシリンダーが伸びた状態で  
使用してください。**

## 【ジャッキアップ（上昇）】

1. ご使用は水平なコンクリートなど、強固な床面の上でご使用ください。
2. 車輻は常にパーキングブレーキをかけた状態にし、車輻が動かないように車止めをします。
3. 車輻メーカーが指定したジャッキアップポイントの下に本製品を設置してください。  
(ジャッキアップポイントは、車輻の取扱説明書をご確認ください)
4. ハンドルを使ってリリースバルブを時計回りに回し、バルブを締めます。※締め過ぎに注意してください
5. ハンドルを本体横のソケットに入れてポンピング（ハンドルを上下）し、車輻をジャッキアップします。
6. ジャッキスタンドを車輻メーカーが指定した適切な位置へ配置します。（車輻の取扱説明書をご確認ください）  
※ ジャッキスタンドをせずに車輻の下には入らないでください。
7. 本製品は長時間にわたって重い負荷を維持するようには設計されていません。
8. ハンドルを使ってリリースバルブをゆっくりと反時計回りに 2 回まわして、ジャッキスタンドへ荷重を下げます。

※バルブは緩めすぎないでください（2 回以上まわすと外れる恐れがあります）。

## 【ジャッキダウン（下降）】

1. ハンドルを使ってリリースバルブを時計回りに回し、バルブをしっかりと締めます。
2. ハンドルを本体横のソケットに入れてポンプアップ（ハンドルを上下）し、ジャッキスタンドから車輻を持ち上げます。
3. ジャッキスタンドを取り外します。  
※ 車輻の下に入らないように注意してください。
4. ハンドルを使ってリリースバルブをゆっくり反時計回りに 2 回まわし、圧をかけるとジャッキダウンします。

※バルブは緩めすぎないでください（2 回以上まわすと外れる恐れがあります）。

## 5. メンテナンス

定期的（3ヶ月ごと）にメンテナンスをお勧めします。

ジャッキは重い負荷をサポートするため、潤滑はジャッキにとって重要です。

1. シリンダー、ポンプ機構を工業油（作動油#30）でオイルアップ（潤滑）します。
2. 溶接部のひび割れ、緩んだ部品の欠落やオイルの漏れがないか目視検査します。
3. 製品に異常な負荷や衝撃が加わったと思われる場合は、直ちに検査するものとします。
4. 汚れた場合はウエス等で拭き取り綺麗な状態を保つようにしてください。
5. オイル量をチェックし、少ない場合は補充してください。
6. 錆や腐食がないか、定期的にシリンダーをチェックしてください。
7. 使用しないときは常にシリンダーを完全に下げた状態で保管してください。
8. 補充するオイルは、（作動油#30）を使用してください。

### ■オイル充填手順

1. ハンドルを使ってリリースバルブを締めた状態から 2 回転させ、シリンダーを完全に一番下まで下げます。  
無負荷の場合、シリンダーが下がりませんので 受け台に力を加えて下げてください。
2. 本製品が水平位置にある状態で、本体横にある【オイル補充プラグ】を取り外します。  
ハンドルソケットを下にして、ジャッキを垂直位置に立てます。  
オイルは（補充穴の下側）と同じ高さまで（作動油#30）を充填します。  
過剰に充填しないでください。  
充填するオイルは新しくきれいな（作動油#30）を充填してください。
3. オイル充填プラグを取付け、ジャッキの動作を確認してください。
4. 必要に応じて、エアー抜き作業を実施します。



オイル充填プラグ

## ■エア抜き手順

1. ハンドルを使ってリリースバルブを締めた状態から 2 回転させ、シリンダーを完全に一番下まで下げます。  
※ 無負荷の場合はシリンダーが下がりませんので、受け台を踏み体重をかける等して下げてください。
2. 【オイル充填プラグ】をペンチ等の工具で注意深くゆっくりとつまんで、閉じ込められた空気を解放します。(右図参照)
3. ハンドルを本体横のソケットに入れて約 8 回程度ポンピング (ハンドルを上下) します。
4. ハンドルを使ってリリースバルブを時計回りに回し、バルブを締めます。
5. ハンドルを本体横のソケットに入れてポンピング (ハンドルを上下) し動作確認をします。  
場合によって、上記手順を 2～3 回程度繰り返してください。



## 6. トラブルシューティング

症 状	原 因	手 順
シリンダーが一番上まで上がらない	オイルが少ない	オイル量を確認する (少ない場合は補充する)
シリンダーが負荷を保持しない	・ リリースバルブが締まっていない ・ 部品の摩耗や劣化	パッキンの交換 (販売店へお問合せください)
シリンダーが下がらない	・ 無負荷の状態である ・ 部品の摩耗 ・ 内部損傷	・ 受け台に圧をかける ・ 部品を交換する (販売店へお問合わせください)



ジャッキは無負荷の状態では下がらないので、  
足で踏み体重をかける等して受け台に圧をかけ下げてください。

# 7. パーツリスト

